

芹川 川づくり会議 質問・回答 集計

質問事項	回答
1 地域の川の形状で住民の思いが違う。上・中・下流でのコンセンサスをどのように説明していくか。	川づくり会議の中で、上・中・下流の住民の皆さんから参加していただいております。お互いに意見を交換し、認識を深めて頂くことが、この川づくり会議の大きな目的でもあります。
2 四手川合流地点より下流域の未改修区間は、なぜ本計画案に入っていないのか。	ダムが完成すれば四手川合流地点から旭橋付近までは、現況で十分流下能力があります。
3 各井堰の取水施設の改修工事は実施されるのですか？	河川改修計画で支障となる場合には改築することになりますが、そうでなければ施設管理者の判断となります。
4 (野田沼) 犬上川→(平田川)→彦根港湾までを放水可能地域として流路想定範囲に含めるべきである。	各河川ごとの流域に生活基盤が形成されており、安易な流域変更は避けるべきです。
5 瀬切れ対策と洪水対策は、分けて考えるべきでないか。	瀬切れと洪水は、相反する現象ですが整備計画(案)で示されている計画では、洪水時と瀬切れ時にそれぞれ対応できるものとなっています。
6 6月中旬の2日間の降雨で、琵琶湖の水位が21cm上昇したが、もっと大量に降った場合H2の実績でも大丈夫なのか。	H2の実績では、-60から+29まで約90cm水位が上昇しました。このとき芹川では栗栖地区で氾濫し、疎通能力の限界に達したことを確認しています。
7 芹川下流の沿岸の地下水を確保する対策は考えられないか。	ダムの影響による現況地下水の減少はないと考えていますが、実施に際しては事前調査等を行い対処します。
8 芹川ダム合同井堰の下流慣行水利の井堰は、撤去できないのか。	水利として必要な施設であれば理由のない撤去は出来ません。
9 代替案を積み上げた時の対策効果は。	芹川の最適な治水方策の検討として、各代替の複合案も検討しています。現計画である「ダム＋一部河川改修」が総合的に判断して最も最善な方法と考えています。
10 芹川下流で多自然工法が採用できないか。	今後の河川改修工事で可能な部分については基本として多自然型工法を採用して参りたい。
11 芹川ダムは自然破壊でありダム寿命も100年程度で長い将来どうなるか。事業費が安くても維持費が高つく。中止してほしい。	ダムの寿命は100年というわけではなく、100年分の計画堆砂量を確保しているのであり、適正な維持管理により半永久的に使用可能であります。ダム建設が環境に与える負荷は無視できませんが、なるべく影響が少なくなるよう工夫していきます。
12 芹川両サイドの道路改良は。道路幅は。生活道路。観光道路。	地元及びそれぞれの道路管理者(彦根市、多賀町、滋賀県)と協議のうえ対応してまいります。
13 ダムで、治水と利水を同時にできるのか。	栗栖ダムにおける利水は農業用水や工業用水ではなく、下流の河川維持用水を補給するための容量です。
14 一円ダムを治水目的に使えないのか。	このダムは、灌漑用水の補給目的として利用されています。このため洪水期にも常に満水に近い状態を保っているため、洪水を受け持つ余裕はありません。
15 ダム計画について、国土交通省は考えると言っている。県の方針はどうか。	基本的な考え方は国と同じですが、栗栖ダムのように芹川の治水上必要不可欠なダムは、是非推進していきたいと考えます。平成10年の事業評価監視委員会及び国土交通省の毎年度のダム総点検でもその必要性が認められています。
16 石灰岩質でのダム計画は良いのか。	ダム位置、貯水池共にダム建設に十分な地質調査を行い、安全性を確認しています。
17 100年に一度の大雨そのものに意味がないのでは。きりが無いのでは。	確率は大雨の発生する頻度でもありますが、治水計画の基本とする河川の規模、重要度の目安です。県全体、湖東圏域全体として、氾濫区域内の人口、資産規模の整合性を持った計画と考えています。

芹川 川づくり会議 質問・回答 集計

質問事項	回答
18 芹川が溢れる前に、水を溢れさせてはダメなのか。	遊水池による治水方法の検討は行っていますが、十分な効果を得るためには広大な用地が必要となり、高度に利用された土地がつぶれるなど、現実的な対策ではありません。
19 植生護岸は年数が絶てくると、安全性はどうか。	適正な維持管理をすることにより安全性について問題はないと考えています。植生護岸は、自然や生態系に優しいとされており、今後推進するべきと考えています。
20 自然環境を愛するための施設も、限度があるのでは。(公園を造りすぎるのはダメ)	施設整備に当たっては、その必要性を十分吟味するとともに計画実施にあたっては自然環境に配慮するものと考えています。
21 現在ある田を、畦を盛ることで遊水池にならないか。1/100の403mm=40cmでは。	403mmの降雨は、芹川の流域全体に降るため、上流からも流出してきます。流域はほとんどが山林であり、単に一部の田の嵩上げでは、多くを期待することは出来ません。
22 ダム回避の方策はないのかなあ。	技術的には可能な方策は考えられますが、社会環境・自然環境への負荷、及び経済性等、他の代替案の検討の結果、現計画の「ダム＋一部河川改修」が最善と考えます。
23 芹川とよく似た他の河川のやり方を、検討したらどうか。	流域状況や川の特性は河川ごとに異なり、これらを勘案した計画が必要と考えています。
24 下村付近、県道改修済みの部分を見ると、明るい希望を感じるが、水没地など、今更中止ともいえず、展開をはっきりしてほしい。	水没予定地の方々には、非常に長い間心労を煩わしています。河川整備計画を早期にまとめさせていただき、少しでも早い事業進捗を目指したい。
25 栗栖の「飛の木橋」から上流の自然風景が、ずいぶん悪くなる心配をする。なるべく上流に堰堤を移すべきだ。	治水容量やダムサイトの調査結果から現位置に計画しました。設計段階で極力景観に配慮してまいります。
26 市街地。単に排水川のような改修で、魚が遡上する川でない。深みを作るような改修も合わせて工夫してください。	今後の改修時には専門家の意見を聞きながら、良好な河川環境の創出に努めます。
27 100年に1回という水害と言うことだが、ダムを造ることのデメリットが大きいのではないか。	住宅や山地の水没などデメリットはありますが、ダムによる洪水被害の軽減と正常な流水の維持など費用対効果の算定も行い、現計画が妥当なものとして提案しています。
28 通常の水を貯めないダム-50年に1度の利用価値。そういうダムの事例は。	兵庫県の天王ダム、石井ダム(計画)等の例があります。治水容量はそれぞれの流域の洪水調節に必要な量を確保しています。
29 治水目的に限定した時、今描かれているダムという手段がベストチョイスなのか疑問だ。	現計画案の「ダム＋一部河川改修」案は、他の計画に比べ経済的にも事業効果の発現にも最善な計画と考え、提案しています。
30 下流域の土砂を採って、瀬、淵等変化を付けたらよいと思います。	多様な動植物の生育、生育環境は、今後の具体的な川づくり計画において考慮すべき事項と考えております。
31 ダムができて、飛の木橋付近の景観は残すよう、水量調整を望みます。	ダムができて洪水時以外はこのまでの状況と変わりません。
32 遊水池を設ける場所は、BS付近に多くある。	ご指摘の場所を含め、遊水池計画等複合的な検討を行いました。十分な効果を得るためには広大な用地が必要となり、高度に利用された土地がつぶれるなど、現実的な対策ではありません。
33 芹川の自然環境を守るためには、もう少し時間をかけて考えるべきだ。	下流の自然環境を守るためにも自然の改変度が比較的小さいダムによる洪水調節手法を提案しているものです。湛水域については、現在の河床付近の自然は改変されますが、新たな水辺が創造されます。より良好な自然環境となるような整備を検討していきたいと考えています。

芹川 川づくり会議 質問・回答 集計

質問事項	回答
34 栗栖ダムと、中川原地区の瀬切れがどうなるのか知りたい。	現計画では洪水時にダムの貯留水を少しずつ流し、瀬切れの回数を減らすようなダムの運用を考えています。
35 栗栖ダムが完成したとして、下流の環境がどうなるのか説明して下さい。	洪水調節が主目的であり通常は現在の状況と大きく変わらないと考えています。しかしダムにより下流への土砂の供給が断たれるなどの影響があるため、完成後の監視が必要と考えています。
36 土砂の排出と再利用をどうするのか。	ダムの堆砂容量としては100年分見込んでいますが、相当量堆積した時点には、浚渫し骨材への再利用の有効活用に努める考えです。
37 栗栖ダムと現芹川ダムの関係をハッキリ、治水、利水に分けて、わかりやすく説明してほしい。	芹川ダムは農業用水の利水ダムで治水機能は全くありません。栗栖ダムは治水と下流河川への維持用水の補給を目的としています。2つのダムはその建設目的（機能）が異なります。
38 ダムを建設する前に考えてほしいこと。栗栖周辺での、洪水の被害（水量）を少なくするために、まず、川の浚渫を行ったらどうか。	川の浚渫だけでは洪水被害を防ぐことはできないと考えています。洪水被害から守るために「ダム＋一部河川改修」により対応しようと考えています。
39 治水の必要性は強く感じた。しかし、ダム以外の選択肢はないのか、提示してほしい。	現計画案が最善と考えていますが、ダム以外の複合的な計画（例えば河川改修＋遊水池＋河床掘削等）も検討し、前回までの川づくり会議で説明させていただいたところです。
40 芹川合同井堰の改修時期やその構造について、どのようになるのか。	河川改修計画上改築の必要はありません。
41 旧道の変更に伴う道路計画路線でダム周辺についての取付を教えてください。	地元のダム対策協議会と何案かで協議中ですが、現在のところ結論が出ていません。
42 ダム建設。治水だけでは能がない。	治水容量の他に利水容量として大きな容量を確保することは、芹川本川の地形上困難です。
43 寿命100年ということだが、50年が限度ではないか。	ダムの寿命は、100年ということではなく100年分の堆砂容量を確保しているのであり、適正な維持管理により半永久的に使用可能です。
44 水温の差は（ダム上流→下流）	ダムの貯留により、表層水の若干の水温上昇は生じると考えられますが、下流における水温変化は河川毎に流下形態も異なるため、判断できる明確なデータはありません。
45 市街の芹川。天井川。今後、一考を要す。	市街地を流れる芹川下流部は、天井川を形成しており、洪水時は非常に危険な区間です。河川の拡幅や切下げは、市民が憩う貴重な空間の改変や自然環境および社会環境に大きな影響を与えることから、ダムによる治水計画を提案しています。
46 JRから下は川床をもっと掘り、管理すべき。川床と琵琶湖水位との差はどれくらいか。	現在でも琵琶湖の0水位で、後三条橋まで水位が来ています。更に河床を掘り下げるとなると、上流の河川内まで滞水することになり、美しいせせらぎや川の流れが無くなることとなります。このことから改変を伴わない現計画「ダム＋一部河川改修」を提案しています。
47 池州橋の水位と、琵琶湖の水位は、同じくらいか、琵琶湖の水位を下げさせて、川の流れを良くすべき。	池州橋地点は、琵琶湖の水位の影響を受ける区間のため、ほとんど水位差はありません。琵琶湖の管理水位は瀬田川洗堰操作規則により決められており、水位を下げることは下流利水等の関係もあり困難なものと考えます。

芹川 川づくり会議 質問・回答 集計

質問事項	回答
48 犬上川、愛知川は、水が流れていないが、ダムのためか、見学してはどうか。	栗栖ダムによって現状より悪くなることはありません。犬上川、愛知川のダムは、その建設目的が農業用水であり、治水目的の栗栖ダムと異なるため比較することは適当ではありません。また、水が流れていない理由としては河床材料等の関係から伏流していることも考えられます。
49 もっと、ダムの弊害、マイナス面を説明してほしい。	水没に伴う民家の移転と水没地の自然環境および生態系への負荷、貯留による水質変化の可能性、下流への土砂供給の減少等が考えられます。なお治水方策としては、治水機能を含め総合的な判断が必要と考えております。事業実施にあたっては可能な限り環境負荷の削減に努めます。
50 地球温暖化防止 CO ₂ 削減計画で、クリーンエネルギー開発が急がれていますが、栗栖ダムまたは芹川ダム利用による発電計画はできないのか。	治水を優先する栗栖ダムでは地形上発電容量を確保することは困難です。
51 上、下、水谷集落 40 軒の移転の交渉は、どの程度進んでいるのか。妥結して、動くとした軒数は何軒か。	ダム計画について基本的な同意を得ており、集団移転地についても多賀町では既に確保されている状況です。具体的な交渉については今後進めてまいります。
52 ダム完成予定、パンフレット配布は、都合悪いのか。	芹川川づくり会議の意見を参考に河川整備計画を策定し、国の認可が下り次第、作成し配布できるように考えています。
53 ずいぶん前から栗栖ダムの話は聞いていたが、どうして今になって、県は積極的なのか。	これまでも地元多賀町および下流彦根市と積極的に進めてきましたが、平成9年の河川法の改正により、「河川整備計画に住民の意見を反映させる」手続きが導入されたため、今回の川づくり会議のような場を設けています。皆さんの意見をお聞きし、整備計画に反映させ、住民参加による川づくりを進めていきたいと考えます。
54 ダムの寿命 200 年？200 年後、1000 年後はどうなるのか。第2, 3 のダムが必要か。	堤体を含めた一連の施設は、適正な維持管理を行うことにより半永久的に効力を発揮するものと考えています。よく言われるダムの寿命 100 年は、堆砂量の対象機関を指して言い、これも除去すれば半永久的に使うことが出来ます。また溝砂になったとしても、洪水調節容量を侵すことなく十分に機能を発揮する構造になっています。
55 栗栖村に対する影響はないのか。100 ~200 年後、ダムが決壊することはないか。	ダムはいずれの土木構造物よりも安全性が問われるものであり、計画にあたりましては断層・地形・地質等を十分かつ綿密に調査し、十分な熟度を有した設計基準等により設計そして施行を行うこととしています。よって決壊することはありません。
56 利水については、ダムは不要と思われる。現状の改修でよいのではないのか。	治水のためにはダム建設が有効と考えています。栗栖ダムの利水は下流の瀬切れの回数を少なくするためのものです。
57 ダムに堆積した土砂を取り除く作業をしていた（長野県にて）が、水が汚濁されている。川が、死ぬのではないのか。	土砂除去作業時には十分な濁水処理対策を実施します。
58 飛びの木橋から R306 までの河川改修計画はどのようになっているのか。	ダム完成後の計画流量 440m ³ /s に対し、現況流下能力は狭いところで 200m ³ /s 程度であり改修が必要ですが、具体的な計画については今後検討してまいります。
59 芹川ダムへの取水はどうなるのか。	ダムの工事中、完成後も現状の水量は確保されます。
60 河内の風穴は、ダムができて大丈夫？	ダムの貯水域から十分離れているため、影響は全くありません。

芹川 川づくり会議 質問・回答 集計

質問事項	回答
61 その他の文化財、自然の保護は大丈夫？	文化財保護・自然環境保護については、環境影響評価での審査や専門家の意見を聞きながら、保護に向け出来る限りの対策を講じていきます。
62 栗栖の村はダムができた後、危険はないか。	ダムはいずれの土木構造物よりも安全性が問われるものであり、計画にあたりましては断層・地形・地質等を十分かつ綿密に調査し、十分な熟度を有した設計基準等により設計そして施行を行うこととしています。下流に危険が及ぶようなことはありません。
63 工事用の道路は、村より上を新たに作るのか。	道路については、ダムの計画に合わせてルート決定します。決定までには地元及び多賀町と十分な協議を行います。